

## スタッフルーム

## 散歩—都市の記憶を探して—

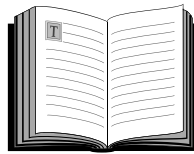
ながしま としき  
長島 敏樹

(湘南藤沢メディアセンター事務長)

2011年10月まで日吉メディアセンター課長)

散歩が趣味である。散歩と言っても歩くのが目的ではないし、健康のために歩いているという意識はない。最近、中高年の街歩きやハイキングが流行っているようで、関連する書籍が多数発行されているが、それらを読むことはほとんど無い。

何かを見たり写真を撮ったりするために都内や横浜市内を歩くことが多い。事前に綿密な計画を立てて出かけることは少なく、休日の朝、起きてから天気によって、あるいはその日の気分によって行く場所を決める。気まぐれである。行きたい場所の候補は、日頃から読んだ本（ガイド本ではない）に付箋をつけておいたり、Web ページを印刷して保存しておいたりしている。日吉メディアセンターで昨年からは実施している「塾生選書ツアー」で選ばれた本をはじめ、日吉図書館には私の散歩に役立つものがいくつもあり、重宝している。



見て歩くものは、近世以降の遺構・遺物、やや古いが現役で活躍している建造物が中心である。

たとえば隅田川に架かる橋。昭和初期に架けられたものが多く、重要文化財に指定されている橋もあるし、「東京市」と刻まれたプレートが付いているものもある。特に気に入っているのが浅草に近い駒形橋。川沿いの遊歩道から橋の裏側をデジカメで撮影し、その画像を確認した時に、思わず「きれいだ!」と声に出してしまった。鮮やかな青の幾何学模様が大変美しい。

庚申塔もよく見てまわる。200~300年前に一般庶民によってつくられた石造物が、道端に何気なく置かれているのが不思議である。地域により、年代により形に特徴があるようだ。台座にはそれを立てた人々の氏名が刻まれていることがあるが、自宅近くのそれを見ると、現在でも地元の有力者である人と同じ姓を持つ人の名であることが多く、興味深い。ただし、何かの本で紹介されているのを見て、現地に出かけて行っても見つからないことも多い。開発等で撤去されてしまうのだろう。逆に思いがけないところで見つけることもしばしばである。

「几号」もずいぶん見て歩いた。几号とは明治

時代初期に行われた測量の水準点で、鳥居や石碑のような動かないものや地面に埋めた石などに漢字の「不」の字のような記号が彫り込まれたものである。東京都内や横浜市内にもいくつか残っている。これを探すのを趣味にしている人もいるようだ。ある Web ページによれば慶應の三田キャンパスすぐ脇、綱坂を登りきったところの歩道上にも数年前まであったようなのだが、私が訪れた時にはすでに失われていた。最近、歩道の改良工事が行われたらしく、その際に地中に埋められてしまったらしい。残念である。

渋谷駅近くの繁華街には「陸軍用地」と刻印された石柱がある。たいへんわかりにくい場所にあり、付近をずいぶん歩きまわってようやく見つけた。かつてこのあたりが陸軍の練兵場だったころのものらしい。文化財に指定されているわけでもないのに、再開発が盛んなこの地域に残っているのは奇跡的だ。

「土木学会選奨土木遺産」、「東京都選定歴史的建造物」、「横浜市認定歴史的建造物」等、一定の評価を得て保存されているものもある。つい先日は、自宅から比較的近い「大原隧道」を見に行った。これは「土木学会選奨土木遺産」と「横浜市認定歴史的建造物」に選定されている。昭和初期につくられた水道管敷設用と歩道を兼ねたトンネルだが、デザインが良い上、内部は夏でも涼しく心地よい。

鉄道関係の遺構もよく見に行く（鉄道遺産巡りはこのところ流行りだ）。最近見たのは菊名駅の、かつて横浜線と東横線をつなぐ線路があったというあたり。現在では、自転車置き場になっているようで、壁面が東横線と横浜線を結ぶようにゆるやかにカーブしている。

このように、知らずに通り過ぎてしまいそうな、だけどよく見ると過去と現在とを結びつける都市の記憶のようなものが好きである。東京や横浜で変わった建造物や地面にカメラを向けている怪しげなおじさんがいたら、それは私かもしれない。